

障害者支援施設 障害者福祉センター厚和寮

1 基本方針

障がいのある方に対し、快適な施設生活が送れるよう介護サービス提供の充実を図ると共に、地域や家庭での新たな生活に向けて安心して移行できるよう支援を行う。

また、在宅の障がい者に対しては安心安全な日中活動の場所を提供し、ケアマネジメントの手法を活用して社会リハビリテーションを中心とした各種サービスを提供し、地域生活に必要な社会生活力を高めると共に、地域資源との連携の中で自立と社会活動への参加を目指した支援を行う。

2 利用者の状況（令和7年3月31日現在）

（1）入所者状況

（人）

利用人数		前年度末利用者数	令和6年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数	
区 分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別									
					地域移行		家庭復帰	施設移管	契約解除 (入院等)	死亡				
				GH	アパート等									
生活介護		60	67	0	7	0	0	0	4	1	2	12,357	76.5%	60
施設入所支援		40	41	0	6	0	0	0	4	0	2	14,009	95.9%	35
5年度	生活介護	60	63	6	2	0	0	0	0	2	0	12,590	77.7%	67
	施設入所支援	40	42	1	2	1	0	0	1	0	0	14,567	99.5%	41

（2）障害支援区分

①生活介護

（人）

性別	障 害 支 援 区 分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	2	16	17	5	4	44
女性	0	0	0	5	8	3	0	16
計	0	0	2	21	24	8	4	60

②施設入所支援

（人）

性別	障 害 支 援 区 分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	8	11	3	3	25
女性	0	0	0	3	5	2	0	10
計	0	0	0	11	16	5	3	35

3 事業の実施状況

（1）安定した経営をめざす

年度当初の入所利用者は41名でスタートしたが、2名の方が法人内の障害者施設へ、同じく2名の方が法人内の高齢者施設と2名の方がお亡くなりになり、現在は35名の入所利用となっている。

建築資材の高騰や目まぐるしく変わる福祉制度の影響などもあり、改築時期の定まらな状況ではあるが、当寮の将来構想として「国の目指す入所施設から地域生活への移行を進めるため、重度者にも対応した夜間の見守り体制が整ったグループホームへ建て替えし、移行すること」を掲げ年度の後半より利用者の減員に取り組んでいる。

現在は様々な障害の方にご利用頂いているが、本当にお一人おひとりに最適なサービスが提供できているのか、法人内にもっと適したサービスができる施設があるのではないか。また、法人内に限らずご自宅近くもっと適した施設があるのではないか等検証を進めている。一方で、築53年の建物の老朽化は否めないが、4人部屋の解消や喫茶スペースが確保できたりと居住環境の改善も図られている。

緊急短期利用の重要性は感じながらも個室ニーズに対応できないため利用に繋がらなかった

が、今後は重要性を感じながら広く対応していきたい。

通所利用に関しては年度当初26名からスタートしたが、1名の利用終了があり現在は25名の利用となっている。

短期入所についても目標稼働率を達成することは出来なかった。定期のレスパイト利用だけでは利用率は限定的であり、他機関からの依頼による緊急利用等その他の要因に依存するところが多い。

- ・稼働率：生活介護76.5%（目標86%）、施設入所支援95.9%（目標100%）、短期入所21.7%（40%）

（2）ひとり一人の自己実現を目指したサービスの提供

本人ニーズの引き出しを第一に家族の意向も聞き取りながら、定期的にカンファレンスを開催をした。

今年度地域移行者を出すことはできなかったが、今年度から単県事業で始まった「地域移行促進補助金」の後押しを受けながら4名の方の地域移行の取り組みを行った。まだまだ、移行意欲は高まっていないが引き続き、動機付けの取り組みを続けたい。

個別リハビリに加えた、定期集団リハビリの機会を提供することに関しては、リハ職員の育児休暇取得により提供することが難しかった。次年度は育休からの復帰を予定しておりより多くリハビリ機会を提供したい。

（3）地域共生の土壌作りに努める

基幹相談支援事業所等と連携し、刑の執行猶予者の支援に当たった。多機関と連携することで無事に刑の執行猶予期間を終えることができた。今後も引き続き、必要な支援を行うと共に、地域の社会資源としてできる役割を広げて行きたい。

（4）働きやすい職場作り

事務職員や上司の声かけにより、サービス残業禁止の徹底を行った。

月初めに職員夕礼で「厚和寮倫理綱領」を唱和し、意識の高揚を図った。

寮内の復命研修の機会を増やし、情報の共有に努めた。

4 実習、ボランティアの受入状況

（1）実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
社会福祉士相談援助実習	8、9、10月	2人	9人
鳥取湖陵高校(現場実習)	5-12月	5人	75人
鳥取社会福祉専門学校	11月	1人	5人
介護等体験	9月	1人	5人
計		9人	94人

（2）ボランティアの受入実績

鳥取大学附属特別支援学校高等部、ボランティア体験事業、寺族会婦人会、鳥取湖陵高校、園芸セラピー
[延べ168人]

5 附帯事業

（1）短期入所事業

定員 6名及び空床型

（2）利用実績

(人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	9	474	10	583